

「組合員になってよかった」



亡き妻と共に歩んだサークル活動

草津北支部 野添 正一

1971年、膳所地域に「民主的な診療所建設を」と、資金集めに参加し、その後、「滋賀に医療生協の診療所建設を」ということで、こびらい生協診療所建設にも参加しました。理事・支部長・運営委員などを経験しました。

また、組合員が主役のグランドゴルフ・カラオケ・健康マージャン・歌声の各サークルを、みなさんと一緒に立ち上げました。サークル活動では、今は亡き認知症の妻と15年もの長きにわたり、行動を共にすることができたのは、サークル仲間のみなさんや、こびらい生協診療所の職員のみなさんの温かい励ましがあったからだと思います。

同時に、このような交わりのなかで、かかりつけの医療機関で「主治医」を持つことの大切さを実感しました。健康で人間らしい生活が送れるよう、今後もみなさんと共にいきいきと、活動を続けていきたいと思っています。

組合員みなで仲間を増やして、みなさんの「医療生協でやりたいこと」が実現できるようにどんどん挑戦しましょう。

そして、あなたの「組合員になってよかった」声も紹介させてください。

「いのちの平等」を訴えて・・・

草津南支部準備会 松田 亜樹夫

以前から「医療生協」の名前は知っていたのですが、どんな活動をしているのかは知りませんでした。私が医療生協に加入して何年目かに、総代会の議長を頼まれたのが、大きな出会いのキッカケとなりました。当時は、資本主義が極端な形で現れだし、富める者と貧しき者との格差が広がり、最も深刻に表れたのが「いのちの不平等」ではないかと思います。

医療スタッフや組合員の皆さんが、班やサークルなどを通じて、「いきいきと活動している姿」を、ほほえみを通じて感じています。また、ほほえみの欄外にある「一人はみんなのために、みんなは一人のために」は、とても大切な意味を持つ言葉だと思います。

これからも「いのちの平等」を、組合員のみなさん・職員のみなさんと訴えていきます。

医療生協の理念に感動

湖南・甲賀支部 西谷 徳司

この度、医療生協 湖南・甲賀支部の運営委員として、会議に初出席をし、医療福祉生協の基本知識を得るための入門書を戴きました。早速読み進んだところ、何と崇高な理念の下に設立運営されているのかと考えを新たにしました。

特に、組合員は出資者であり、運営者であり、利用者であるという三位一体の特質があること、また医療専門家と対等に協力・協同する組織は他の医療団体にはないとの文言に得心しました。また運営は職員や理事の方々携われれば良いと思っていましたが、すべての組合員も様々な形で参加することが重要な意味を持つのだという視点から、少しはお役に立てることへの努力をしていかねばと思います。